

<アイデア>

第5学年「(1)ア(ア)」(世界の中の国土)」

我が国の国土の様子についての知識を活用して、宇宙飛行士になったつもりで同じ宇宙船の外国人乗組員に日本の位置を伝えるアイデア

【学習問題】

宇宙飛行士になったつもりで、同じ宇宙船の外国人乗組員に日本の位置を伝えます。どのような内容にすればよいでしょうか。



本単元に関する学習指導要領の内容 第5学年「(1)ア(ア)」(国土の位置)

(1) 我が国の国土の様子と国民生活について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 世界における我が国の国土の位置，国土の構成，領土の範囲などを大まかに理解すること。

(イ) 地図帳や地球儀，各種の資料で調べ，まとめること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 世界の大陸と主な海洋，主な国の位置，海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して，我が国の国土の様子を捉え，その特色を考え，表現すること。

＜本アイデアのポイント＞

- ・ 一度の学習では十分に身に付けることができない「国土の様子」についての知識を，授業の終末や，単元末などでもう一度楽しく確認することができます。

国土の位置について，厳密に一つの結論を導くことよりも，様々な表現の妥当性を考察することにより，知識を定着させたり，概念化したりすることが期待できますね。



個人で考える。



「ユーラシア大陸の東」というのは、使えるぞ。

「中国の東」という言い方も分かりやすいと思うな。

※個人の考えの例

- ・ ユーラシア大陸の東に四つの島で見えるのが、日本です。
- ・ 中国の東にあって、緑におおわれている国が日本です。
- ・ 赤道から少し北にあって、太平洋の西の端にある、南北に長い国が日本です。

学級で話し合う。

中国の東にあって、南北に長く、
四つの島で見えるのが日本です。



大陸名や海洋名，方位などを使う
と，伝わりやすいんじゃないかな。

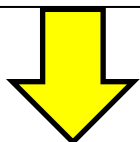
できるだけ少ない情報量で，
的確に表現するという視点
で，どう絞り込むか考えて
いきましょう。



個人で考えを再構成し，まとめる。

※個人の第1案の例

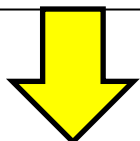
中国のとなりにあって，四つの島で見えるのが日本です。



グループや学級での話し合いを経て，考えを再構成します。

※個人の最終案の例

ユーラシア大陸の東にあって，南北に細長く連なる，四つの島で見えるのが日本です。



考えが変容した根拠を明確に記述させます。

※最終案にした理由の例

最初は，中国の東としていたのですが，〇〇さんの意見を聞いて「ユーラシア大陸」を使った方が，的確に伝わると思いました。また，「南北に細長い」とか「四つの島」などを使えば，場所がよりはっきりすると思いました。

受講者の感想

- ・ 学習したことのまとめとして、友達の話聞いて思い出すことがあったり、大切なキーワードを確認できたりするので、大いに参考にしたいと思った。
- ・ 宇宙飛行士という状況設定をすることで、知識を活用させるという方法が参考になった。個→グループ→学級と練り上げていき、最後に個で再構成するというプロセスも活用できそう。
- ・ 既習内容を生かして、考えを膨らませることで、知識をより定着できると思った。また、「もし宇宙飛行士だったとしたら」という設定も面白く、児童の意欲も引き出しやすいと思ったのでそのような題材の設定の工夫も参考にしていきたい。
- ・ 県の学習状況調査でいつも出る内容ですが、〇〇さんに伝えるという立場で、自分の言葉として繰り返して学習するのは、子どもたちにとっても覚えさせられるという感じではなく楽しみながらできるので、よいアイデアだと思いました。グループで話し合うという意味も考えさせられました。